平成 29 年 8 月 15 日発刊

KCMA

第 1 号
2017
Aug.

2017年　生まれ変わりました!!

本年度よりＮＰＯ法人から一般社団法人へ法人格を変更し、理事長、理事も新たになりました。
県内のケアマネジャーの資質向上のための研修を、さらに充実していくとともに
ケアマネジャーの社会的地位向上のための活動を行ってまいります。会員の皆様との
連携により**“利用者とケアマネジャーがともに笑顔になれる神奈川”**を目指します。
新しくなった神奈川県介護支援専門員協会、どうぞよろしくお願いたします。

ケアマネ通信

目　次

- 新理事長のご挨拶 …… 2
- レポート　今期総会のご報告 …… 3
- 祝一般社団に　メッセージ …… 4
- 認知症ケアのトレンドとは …… 6

今号の表紙
一般社団法人
神奈川県介護支援
専門員協会
第2･3期　理事

新理事長のご挨拶

この度、理事長に就任致しました青地千晴です。日頃は、鎌倉で居宅のケアマネをしておりますが、理事長という大役を仰せつかり、大変身の引き締まる思いでおります。

今年度　当協会は一般社団法人に変わり、会員の皆さまは、一体何が変わるのか？という疑問と期待があるかと思います。事業内容については、県の受託事業もあり、一般社団法人になったからと言って、大きく変えることはできません。しかしながら、役員改選の明確化やファシリテーターの人材登録等から着手し、できるところから改革を必ず行って参ります。そして大切なのは、協会がどんな活動をしているのかを、広報誌をはじめ、ホームページやフェイスブックなど様々な形で、会員の皆さまにお伝えできるように広報活動には特に力を入れて参ります。

また、「神奈川県介護支援専門員協会に入会する意味がない」「メリットを感じない」という言葉を耳にします。そんな声を聴くたびに、専門職として悲しくなります。職能団体というのは、ただ研修をして、資質向上を図るだけではありません。自分たちの職業を守るための団体でもあります。制度改正があるたびに（介護の業界全体がそうなのですが）介護支援専門員の職場は、どんどん働きにくくなっています。会員の組織率が高ければ、その職種全体の意見として、協会からの提案や提言の意見に重みが出ます。一般社団法人になり、会員はすべて介護支援専門員としたことも、その一つの理由です。つまりは、職能団体に入会するだけでも、組織率が上がり、介護支援専門員の社会的地位を向上させるメリットがあるのです。

そして協会は、会員の皆さまに「何かをしてあげる」という団体ではありません。私たち介護支援専門員という職を守り資質を向上するために会員の皆さんが、自ら活動していただく場だと思っています。これからも、会員の皆さまと一緒に活動し、ご協力を願いながら、神奈川県の介護支援専門員の資質向上を共に目指して参りましょう！

理事長　青地 千晴

レポート　今期総会のご報告

特定非営利活動法人最後の総会
一般社団法人最初の総会

広報・出版委員会 委員長 石橋 正道

平成 29 年 5 月 27 日(土)男女共同参画センター横浜にて本会の総会が開催されました。今回の総会におきましては、特定非営利活動法人として行った昨年度の活動報告と決算の承認が最初に行われ、その後一般社団法人として行った昨年度の事業報告及び決算（平成 29 年 1 月から 3 月まで）の承認、今年度の事業計画及び予算の承認、定款の一部変更、理事の改選と議事が進行し、会場からは活発な質問をいただきながら、全案件を可決いただきました。

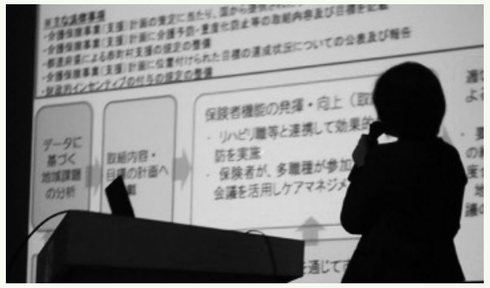
この総会においては、新たに理事体制が承認されました。その特徴は、他の職能団体等からの選出理事をなくし、介護支援専門員のみで構成したこと。特に地域の連絡会から推薦された代表者を多く参画させ、より地域の連絡会との連携を強化していくことを目指しているものです。

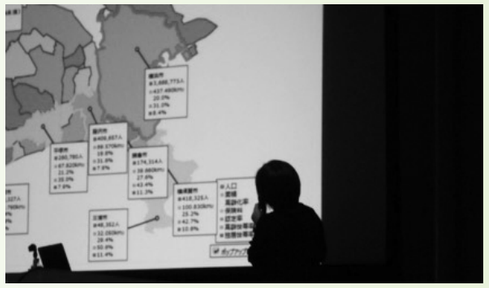
また休憩中に行われた理事会において、新理事長に青地千晴、副理事長に石田貢一、松川竜也、山本玲子、漆間伸之が推薦され、理事の全員一致で承認されました。

総会後に行われた青地理事長による就任の挨拶では、「一般社団法人になって一体何が変わるのか？という会員の疑問や様々な課題を解決していくための取り組み、役員の決め方、定款と実態とが乖離していないかの検証、ファシリテーターの育成、協会の情報を早く広く伝える広報活動の充実」など、今まで以上に会員とともに歩む協会を目指していく決意が伝えられました。

総会記念講演は、厚生労働省老健局振興課地域包括ケア推進官 枝光みゆき氏をお招きして「次期制度改正と地域支援事業について」というテーマでお話しをいただきました。

枝光推進官からは、「地域包括ケアシステムは仕組みを作っていくこと。自分の地域課題を知りデータと取ることの必要性。介護保険を支える人たちの現状を知る。」など今まで以上に地域を意識し、地域に根ざした介護支援専門員を目指して欲しいとのお話しがあり、「どのような地域だったらいいなぁ（住み続けたい）と思いますか？」と住民とともに歩む介護支援専門員のあり方について力強く語っていただきました。





祝一般社団に歴代　理事長からのメッセージ

齊藤　学（初代）

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会への期待

この度、一般社団法人として新たなスタートを切られ、新しいステージへと進まれたことを心よりお祝い申し上げます。

青地千晴理事長の下に県下の介護支援専門員の皆様が結集し、協会が充実した活動を展開していかれることを心から期待している。言うまでもなく、介護支援専門員は、介護や何らかの支援を必要としている方々を支える専門職である。「介護」には生活や人生など様々なことが含まれており、その「介護」を「支援」（支え助ける）する「専門員」Professional である。介護支援専門員各位の実践の知見を共有し、その支援の質を高めていって頂きたい。人の人生の完成期に関わらせて頂く「光栄」を改めて考えて欲しい。支援をとおして、私たちは成長させて頂き、豊かなものを頂くことができる。また、介護支援専門員は制度の子と言われることがある。しかし、子は親の言いなりではない。介護を必要とする方々のために、必要なアクションを起こすことを期待する。声を上げられない方々に代って、私たちは声を上げなければならない。協会の益々の発展を心より祈りつつ。

高砂裕子（二代）

質の高いケアマネジメントの実践を目指して

一般社団法人　神奈川県介護支援専門員協会設立　おめでとうございます。

介護保険制度の創設に伴い誕生した「介護支援専門員」の職能団体として、2000 年 4 月任意団体の「ケアマネクラブ」が誕生しました。その後、2001 年 12 月 NPO 法人神奈川県介護支援専門協会となり、この度一般社団法人を取得なさいました。

地域包括ケアシステムの深化と進化が求められている地域で、介護支援専門員に対する期待は、さらに大きくなっています。その期待に応えられる介護支援専門員を支援するために、常に時代に即した組織のあり方に対応して来られたと思います。

神奈川らしさを大切に、多くの関係者の皆様のご協力のもと、「質の高いケアマネジメントの実践」を目指し続けていただきたいと思います。これからも、介護支援専門員の仲間を思う気持ちを活動の力として、さらなるご発展を心より祈っています。

阿部充宏（三代）

未来へ

神奈川県介護支援専門員協会は、ケアマネクラブにはじまり、NPO 法人、一般社団法人と進化してきました。一般社団法人取得に向けての準備は予想以上に大変なことであったと思います。NPO 法人の解散、一般社団法人の取得につきまして、前理事長の成田さん、役員・事務局の皆さんには「本当にお疲れ様でした」と敬意を表する次第です。

皆さんは、どのように思いますか。ケアマネジメントは、2000 年の介護保険制度施行時にイメージされた通りに 2017 年を迎えているのでしょうか。走りながら考えると言われた介護保険制度の中でケアマネジメントは、どのように進化・真価・新化を迎えているのでしょうか。

私は、2 年前よりケアプラン点検等の仕事が非常に増えました。だからこそ、あえて皆さんに伝えたいと思います。

「介護支援専門員は我が国に必要である」・・・さあ、協会とともに未来へ向かいましょう。

成田すみれ（四代）

新しい協会へ期待すること

神奈川県介護支援専門員協会は、一般社団法人への移行、役員体制の交代と新たなステージに移行しました。

これから、私たち県協会は対人援助の「専門職」として、また公的認証を得た「職能団体」として、社会的にもその役割や機能がしっかりと求められ、会としての成熟が不可避です。以下、幾つかの課題を考えてみました。

まずは職能団体として力をつけるべく会員の増強です。一人でも多くの介護支援専門員が仲間となることが組織力強化の根源です。

次に各会員の専門職としての「育成」支援、各種研修等含め種々多様な自己研鑽の場の創設と提供がまだ必要です。

また、県各地での会活動や情報交換など交流支援とともに、地域での支援実践の把握や点検を図り、支援者や事業所との連携やネットワーク作りも重要な役割です。

そして、会員の実践や地域組織から得た諸々の介護保険に関する問題や課題等に対して、実践根拠に基づく要望や解決等への提言などを、多様な手法で保険者や利用者等地域に伝え・届ける「発信力」も望まれます。

より良い支援者であるために組織として、新たな仲間の知恵と力と志を結集し、専門職として「育ち合う」組織を目指してください。

認知症ケアのトレンドとは

第 18 回日本認知症ケア学会大会に行ってきました！

東京医科歯科大学大学院　神奈川県認知症ケア専門士会　代表　遠藤慶子

はじめに

第 18 回日本認知症ケア学会大会が沖縄で 5 月 26 日（金）～27 日（土）で開催されました。私たち神奈川県認知症ケア専門士会のメンバー 5 名で参加してきました。

遠い沖縄での開催でしたが、3,079 名が参加し、口頭発表 108 演題、ポスター発表 296 演題ありました。

今回の大会テーマは「認知症とともに生きる～私も、あなたも、みんなも～」です。

治る薬もなく、日本の超高齢社会ではこれから誰もが認知症になりうる時代が来るのです。

では、どのようなことが認知症ケアで「trendy トレンデイ」なことなのかを神奈川県認知症ケア専門会のメンバーが研修してきたことを皆様にお伝えしていきたいと思います。

トレンド 1「治さなくてよい認知症：本人の心情と生活への注目を」

特別講演 3：講師　上田諭（東京医療学院大学保健医療学部）

上田先生は朝日新聞の記者として 9 年勤めたあと新聞社を退社し北海道大学医学部に入学し医師になった。都立の高齢者専門病院を中心に勤務し、「適切でない高齢者医療」の現状を目の当たりにした。2007 年から日本医科大学精神神経科、17 年 4 月より東京医療学院大学保健医療学部教授となり現在に至っている。

上田先生の講演より

認知症には根治療法はないので、治らないものを「治そう」あるいは「治さなくてはいけない」と考えるのは、医学研究者だけでよい。治らない障害を持つ人を、目の前にして「治しましょう」と求めることが酷なことで「今のままでいい」！

社会全体が、「早期発見」を「予防」を認知症をまるで社会の悪者のように扱っていることが認知症と認知症の人を否定して悲観的に見ることにつながる。認知症は治さなくてよいし、忘れていいし、できなくてもいい。そのまま受け止めることこそ、医療職、介護職を含めた社会全体がすべきことなのである。

認知症のケアと治療の目標は、認知機能を高めることではなく、生き生きと張り合いのある生活なのである。また BPSD についても初期から中期までの AD では脳機能障害はごく一部のみで、より大きな要因は介護対応や生活状況などの環境にある。BPSD の大半は心理的「反応」であり、認知症のない人と同じように「人」としての反発や怒りや不満が言動に現れたものである。役割をもった張り合いのある生活ができているか？周囲の人が本人の心情を尊重して対応できているか？それをまず考えるべきである。

～大会長　湧波淳子先生からのメッセージです！～

一人称である「私」は、認知症である「私」、認知症の方を支えている家族や医療関係者の「私」、あるいは、警察官や消防、タクシーの運転手さん、コンビニの店員さん、子どもたち等地域で暮らしている「私」等様々な立場の「私」です。

二人称の「あなた」は、「認知症の私」からみた「あなた」＝家族やケアワーカーであったり、「認知症の人の家族」から見た「あなた」＝認知症の方ご本人や医療関係者や近所の方である「あなた」等、上記の「私」の周囲にいる一人ひとりです。

三人称の「みんな」は、「家族」とか「職場」とか「地域社会」など集団としての視点になります。

様々な立場の「私」も「あなた」も「みんな」もともに様々な視点から「認知症」を捉え、お互いの気持ちを理解し、協力しあって「認知症になってもなんくるないさ～（沖縄方言で『なんとでもなる。大丈夫！』の意味）」と考えられる社会づくりへの一歩を歩みましょう。

トレンド 2「ケアをするうえで知っておくべきオーラルフレイルの話」

教育講演 2：講師　平野浩彦（東京都健康長寿医療センター　歯科口腔外科）

1.「ケアをするうえで知っておくべき高齢者虐待」 2.「ケアをするうえで知っておくべき認知症の落とし穴」
3.「ケアをするうえで知っておくべきオーラルフレイルの話」
4.「ケアをするうえで知っておくべき法制度（成年後見制度を中心に）」 5.「ケアをするうえで知っておくべき画像診断で診る認知症」

どの講演会場も行列のできる立ち見でるというにぎわいでした。今回は教育講演 3 を取り上げたいと思います。

平野先生の講演より

今　Fried のフレイルモデルを参考に、高齢者口腔機能低下に焦点化した「オーラルフレイル」という概念が注目されている。現時点でのオーラルフレイルの定義は「加齢に伴う様々な口腔環境（歯数など）および口腔機能の変化、さらに社会的，精神的、身体的な予備能力の低下も重なり、口腔機能障害に対する脆弱性が増加した状態」を提唱している。そこで「ささいな口の不具合」から始まるオーラルフレイルの概念も含め、認知症の人の食支援の視点について考える。

＜歯科医師の視点から見る認知症とは・・・＞

認知症の人の中には十分に歯磨きが出来なかったり、食事をすること自体が困難だったりする人がいるので、食事や口腔ケアは本人と介護者の悩みになりやすい。コミュニケーションや介助が難しく、当事者の変化に戸惑う家族もいる。しかし問題の本質は記憶力の低下でなく、生活に支障があるかどうかを知ることが重要になる。インターネットの普及に伴って認知症に関する情報を得る機会が増えたが、医療関係者も含めまだまだ理解は十分でないので、当事者や家族にとって認知症という「早期発見」が「早期絶望」になることも少なくない。しかし初期の段階で見つけ、生活環境を工夫したりすることで症状が抑えられることもある。食事に関しては食事環境のなかにある障害を取り除くことが大切になる。

＜アルツハイマー型認知症の例＞

自分で食べ始めることができなかったり、食べ方が乱れたりすることがある。その時には「食べる時間ですよ！」と伝えたり、左手にお茶碗をもってもらうことで食事をするというスイッチが入り、食べ始めることもある。手づかみで食べているのであれば、箸やスプーンの持ち方を分かっていないことも考えられるので，最初に箸を持ってもらったり、声かけや動作誘導を行うことで，食事がスムーズに進むことも多い。「何もできないのかな？どうすればできるようになるかな」と想像して，食事を円滑に進めるためのきっかけを工夫する。

口腔ケアについては子どものころから続けきた歯磨きについては、認知症になっても覚えていることが多いが、動作が適切でなくなるのでうまくできなくなることがある。大切なことは非難せず、できたことを尊重することが重要になる。

“8020 運動” は 2011 年のデータで 80 歳で 38％が目標を達成している。しかし認知症が発症するのも 80 代が多く、85 歳の約 4 割が認知症とされているので、今後の歯科医療は今歯のある認知症の人への医療者や家族の対応が問われている。

歯科医師は認知症の疑いに気がつきやすい。来院予約の手続きや歯磨きに支障があったり、診療予約を忘れたりと「あれ？もしかして？」という場面があるという。しかし歯科医師に認知症への理解が浅いと気付かないし、家族にも認知症を知るという双方で認知症の理解を深めることが，認知症の人への尊厳を保ちながら生活支援を続けるための第一歩となる。

いかがでしたか？認知症の考えかたやそれぞれの分野から今回は医師と歯科医師からのメッセージでしたが、確かに認知症への対応が変わってきています。私たち介護支援専門員も、毎月訪問している利用者の変化に気づくこと、また家族間の調整をすることも専門の職種としてもとめられている役割です。認知症ケアについてもまず問われているのは介護支援専門員の人間観と行動であることを考えさせられた 2 日間でした。

歴史こぼれ話 ～壱～

享保の改革を実行し、江戸幕府中興の祖と呼ばれた八代将軍徳川吉宗は、身長六尺（約 180ｃｍ）あり、柔術、鷹狩りを好んでいました。このように体を鍛錬していた吉宗ですが、隠居した翌年に脳卒中の発作を起こし、後遺症で右半身麻痺、言語障害が残り、江戸城西の丸で介護生活を送ることになりました。

『吉宗公御一代記』には、吉宗の症状や介護の様子が詳しく記されています。この記録によると、90 人の小姓が身の回りの介護にあたり、食べ物を口に運ぶ役、歩行リハビリ時に支える役、排泄に付き添う役等、分業がなされていて、食事からマッサージやリハビリ等、きめの細かいケアが行われていたとあります。江戸城内には吉宗の為に「だらだらばし」というスロープ、横木付のバリアフリーの階段も設けられたそうです。

家臣たちの献身的な介護とリハビリにより、江戸城西の丸から本丸まで歩ける程に回復しましたが、脳卒中を再発し、この世を去りました。享年 68 歳。（騒人）

Information

主催研修会情報

法定研修会 ……
- 平成29年度神奈川県主任介護支援専門員研修
  平成29年8月30日（水）～平成29年12月16日（土）のうち12日間

主催研修会 ……
- ケアマネジャー受験準備ポイント講座
  平成29年8月18日（金）ウィリング横浜　10:00～16:00
- 対人援助技術研修　～実践で学ぶ面接技術～
  平成29年9月23（土）横浜市従会館　13:30～16:30
- 特別研修「岸見一郎氏講演会」
  平成29年10月21日（土）横浜市教育会館　13:30～16:30

平成29年度賛助会員様　一覧

・公益社団法人　神奈川県社会福祉士会
・公益社団法人　神奈川県病院協会
・厚木医療福祉連絡会
・公益社団法人　神奈川県医師会
・一般社団法人　神奈川県歯科医師会
・公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
・株式会社　キャロッツシステム
・一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
・公益社団法人　神奈川県薬剤師会
・一般社団法人　神奈川県作業療法士会
・中央法規出版株式会社
・新日本法規出版株式会社
・公益財団法人　総合健康推進財団
・株式会社モルテン
・株式会社フォーラム
・株式会社ウィズネット
・アイテレコムサービス株式会社
・三井不動産リアルティ株式会社
・株式会社　日本保証

正会員・準会員の皆様へ

・引越しなどで住所が変更になった方は、変更届けをご提出ください。（ＦＡＸ可）
・研修会情報などのメールが届いていない会員様は、アドレスの再登録をお願い致します。事務局メールアドレスに「会員メール配信アドレス」と件名をお書き頂き、本文に会員番号、氏名をご記入の上、メールをお寄せください。

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会　事務局
〒231-0023 横浜市中区山下町 23 番地日土地山下町ビル 9 階
TEL 045-671-0284　FAX　045-671-0287
E-mail　jimu@caremanager.or.jp
ＨＰ　http://www.care-manager.or.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/caremanenomori

◎編集 / 発行
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
広報・出版委員長　石橋　正道

Facebook・Twitter
ユーザーはこちら↑